

青郷小だより

令和3年 3月号
高浜町立青郷小学校

玄関前の桜のつぼみが少しずつふくらみ始め、春の訪れが近いことを感じるようになりました。

始まりは 少女の声

難病で視力を失った和歌山市職員の男性が、苦勞しながら1人でバス通勤を始めて1年がたった朝、停留所でバスを待っていると、少女の声が聞こえました。

「バスが来ましたよ。」 「乗り口は右です。階段があります。」

この声が始まりでした。少女は座席まで案内してくれました。それ以来男性と同じバスで小学校に通学するその少女は、毎日その男性を助けてくれるようになりました。その少女は3年後、小学校を卒業しました。

すると、新学期になると声が違う別の少女が助けてくれるようになりました。そしてそれから2年後、その少女も小学校を卒業しました。

しかし、新学期になると、また別の声の少女が男性を助けるようになりました。気がつくとも10年以上もの間、何人もの少女が男性を助けてくれています。

これは、読売新聞に掲載されていた記事の一部です。

これらの少女は、現在14歳、12歳、8歳の3姉妹とその友達だそうです。3姉妹の少女が学校を休んだ日には、その少女の友達が男性をサポートしていたそうです。

このことについて取材を受けた少女は「お母さんに、困っている人を見かけたら助けなさいと言われていたので、当たり前のことをしてだけです。」と答えました。

男性は一時、仕事を辞めようと考えていましたが、「子ども達のおかげで、定年までがんばれそうです。」と話しているそうです。

通勤の朝、青郷小学校近くの交差点で停止すると、横断した子ども達が車に向かって深々と礼をしてくれます。雨が降る下校時、傘をさしていたら「先生、背中が濡れてますよ」と声をかけてくれる子がいます。

我が青郷小学校でも、礼儀正しくやさしい子ども達が育ってくれていることをとてもうれしく思います。



※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉

〈QRコード〉

さあ 新しいステージに！

2か月前のことになりますが、元日に見た新聞広告を思い出しました。

そこには紙面全面に1枚のレシートが大きく写されていました。「一体何の広告？」と思いながらも、別の紙面に移りました。ひと通り新聞を読み終えた後、なぜかその広告が気になり、もう一度見直してみました。

中央に大きく写されていた百貨店のレシートの写真。そのレシートには商品名と購入数が印字されていました。

スーツケース		662個
口紅	76,	175本
浴衣		475着
ハイヒール	1,	001足
ベビーギフト		566個



このレシートを見ても何のことだか、まだ意味がよく分かりませんでした。しかしこのレシートの下には、続きがありました。

新型コロナウイルスで行動が制限された2020年

- ◇それでも自由に旅行できる日のために、662人のお客さまが、スーツケースを購入された。
- ◇マスクの下でもメイクを楽しみたい76,175人のお客さまが、口紅を購入された。
- ◇夏祭りは中止だったけれど、浴衣は475着。
- ◇颯爽と街を歩く日を待ちながら、お求めになったハイヒールは、1,001足。
- ◇生まれてくる命を、566セットのベビーギフトが全力で祝福した。

足踏みばかりの日々であっても、一人ひとりの「私」は、今日を楽しむ工夫を続けた。お買い物の記録に教えられた、大切なこと。百貨店が売られるのも、お客さまが欲しいのも、ただのモノではないということ。

百貨店が売っていたのは、希望でした。

レシートに印字されていたのは、コロナ禍での2020年6月から11月までの、販売実績の一部だそうです。



6年生が、いよいよ3月23日に卒業します。

小学校生活最後の1年間でスタート。感染対策をしての体育大会、県内での修学旅行、オンラインで児童集会、そして感染対策をしての卒業式。しかし、子ども達は決して下を向きませんでした。「どうしたら応援合戦ができるか」「修学旅行を楽しむために」「全校に活動内容を伝えたい」いつも前向きに希望を持って歩んできました。

まだ明るいニュースが少ない毎日ですが、青郷の子ども達ならきっと、夢と希望を持ち、新しい未来に向かって力強く進んでいくと信じています。

さあ、いよいよ中学生、新しいステージが始まります。自分の夢に向かって大きくはばたいてください。

ご卒業 おめでとうございます！